

新聞

2021年3月1日(月曜日) (2)

リレー橋友録 私の橋歴書

<1044>



私は、これまでの二十数年の社会人人生の中で、施工会社やコンサルタンツ、研究機関や大学など、産官学の様々な場所で鋼構造を学ばせて頂き、今に至ります。このお話を頂いた頃、ちょうど大学院後期博士課程の大学院で、ようやく自分の生きる道に確信が持てた折に、このバトンを頂きました。貴重な機会ですので、またまた若輩者ですが、鋼構造にまつ

る設計の醍醐味を実感しました。6年目には工場勤務となり、生産管理を通じて工場製作のいろはを学びました。そのような中、設計の醍醐味をもっと知りたくなり、富貴沢建設コンサルタンツに転職しました。1年半余りと短い期間、その業務が終わるこ

これが私の生きる道

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 関東支社高度化推進部 担当主幹 有村 健太郎

卒業後、鋼構造を専門とするバコーポレーションに入社しました。橋梁設計部に配属され、設計担当として3年ほど経験した後、鋼桁橋の詳細設計を担当するようになり、その中でも鋼コンクリート複合ラーメン橋の詳細設計では、上司の指導のもと、標準構造ではないRC橋脚と鋼桁の剛結部の設計を経験し、形を決め

間でしたが、鋼橋の予備設計や詳細設計のほか、設計や詳細設計のほかに、橋梁点検も経験させて頂き、鋼橋の腐食が思いのほか多く発生していることを実感しました。その後、縁あってオリエンタルコンサルタンツに転職しました。鋼桁橋の詳細設計を1年半ほど

全体系と部材系のそれぞれを考慮した合理的な耐力性能評価手法に関する研究で、鋼桁橋、腐食、冗長性というこれまで経験してきたものから成っています。3年半もの間、山口隆司先生に懇切丁寧にご指導頂き、予定の改定では、座屈現象や研究がまとまりませんでした。この3月に卒業し、現在、私は高度化推進部という部署に所属し、鋼構造チームのリーダーとして任されています。これまで、産官学の様々な場所で鋼構造を学ばせて頂く道に確信を持てるようになり、迷わず邁進したいと思っております。

次回回は、出向時に大変お世話になった土木研究所の澤田守さんにバトンを渡します。